



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第6号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎聖書からのメッセージ:真理に関して
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(2)ネアンデルタール人に関する誤り
- ◎箴言から学ぼう!:神さまは叱責されるお方
- ◎詩篇を読む:聖書で言う「悪者」とか「罪人」とは?
- ◎キリストを信じた体験談:神さま(イエスさま)に変えていただいたこと
- ◎聖書に関する偉人のことば:ジョン・ラスキン
- ◎ご案内

<聖書からのメッセージ > 真理に関して

【聖書箇所】ヨハネの福音書14:6
14:6「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

<私たちは真理を知らず、正解を持っていない>

今回は「真理に関して」として、このことを見ていきたいと思います。「真理」とは少し抽象的なことばですが、要は正しい教え、正しい答え、正しい真実、そのような意味合いとなるでしょうか？私たちが学校へ通っている時、真理や正解を知ることがあまり難しいことではないように思えます。2×3=?の問題の答えは6であり、3×3=?の答えは9です。どんな質問にも正しい答えがあるのです。国語、算数、

社会、理科、どんな問題でも先生が出す問題には、必ず正しい答えがあり、正解があり、真理があるものです。そのような常識をもって、何年も学校で過ごしていくと、私たちはどんな問題にも正解があり、正しい答えがあり、真理がある、それが普通だ、そんな風に思い込んでしまいがちです。

しかし、いざ学校を出て社会に住むようになると、私たちはじつは世の中はそうでもないことを知るようになります。すべての質問に答えがあるわけではない、真理は簡単に分かるわけではないことを知るようになります。人生の大きな問題や深刻な疑問に関して、じつは先生も学者も誰も正解や真理など持っていない、知らないことが分かってくるのです。

世の中には正解が無い疑問、真理が何だか分からない多くの質問や疑問があります。そもそも私たち、人間はどこから来たのでしょうか？進化論は人間とは偶然に生まれたものであり、人

真理に関して

生には意味など無い、偶然の産物であるかのように語りますが、いったいそれは本当なのでしょう。あたかも私たちはスタートが定かでない、そして入るべきゴールもよく分からない人生というマラソンレースを走っているようなものなのです。私たちの目指すべき人生のゴールとはどこなのでしょう？いったい私たちはどのようにしてこの人生を歩んでいくのが正しいのでしょうか？どこへ到達すれば、どのように歩めばこの人生のレースを正しく歩んだことになるのでしょうか？私たちはこれらの疑問に関して、じつは何も正解を持たず、真理を知らないのです。

<真理は宗教や哲学にあるのか？>

さて、このような人生の根源的な問題、疑問に答える学問が世界にはあり、それは宗教や哲学と言われる領域です。それでは、私たちが人生の真理を求めて宗教の世界に入ろうとする時に、じつはまた困ったことがあります。それは世界にはあまりにも沢山の宗教があり、しかもそれらが皆、自分の所に真理がある、正しい教えがある、と主張していることなのです。それでいったいどの教えが正しいのか、私たちには選択の方法も無く、基準も無いため、その善し悪しや判断に、はたと困ってしまうのです。さて、聖書はこのようなくつもの教えに関して、以下のように何でも信じるべきではないことを述べています。

[聖書箇所] I ヨハネの手紙4:1

4:1 愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。

ここに書いてあるように、聖書はどんな宗教でも受入れろ、どんな霊でも受入れるべき、ということではなく、その教えが本当に神から来たものかどうかをためすことが大事であると薦めているのです。いきなり電話が掛かってきて「俺だよ、俺だよ」と言われても、それが本当に息子から掛かってきた電話とはかぎりません。息子を名乗る詐欺師がお金を振り込ませようとしているのかもしれないので、吟味が必要です。同じ意味合いで、これが正しい教えである、本

当の神である、ご利益がある、といってもそれが本当の教え、本当の神とはかぎらないので吟味が必要、テスト、確認が必要、と聖書は語るのです。

<未来を語り、それが実現することは真の神からのしるし>

さて、それではそれらの沢山の神さまの中で何が正しいのかをどのように試し、テストをし、確認をするべきなのでしょう。このことに関しても聖書は示唆を与え、以下のように述べます。

[聖書箇所] 申命記18:21,22

18:21 あなたが心の中で、「私たちは、主が言われたのでないことばを、どうして見分けることができようか。」と言うような場合は、

18:22 預言者が主の名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないなら、それは主が語られたことばではない。その預言者が不遜にもそれを語ったのである。彼を恐れてはならない。

ここで真の神からの教えと、そうではない教えの区分に関して書かれています。それは、その神が語ったことが未来において実現するかどうか、という区分です。もし、そのことばが未来において実現するなら、それは真の神からの教えである、しかし実現しないなら、それは真の神からの教えではない、という区分です。病の癒しやら、奇跡は真の神ではない悪霊からでも起き得ます。したがって奇跡があるからといって、真の神からの教えとはかぎらないのです。しかし未来を知ることは、真の神にしか行えませんが、よって未来を語り、しかしそれが実現しないなら、それは真の神からのものでない、そのようにして試験、テストをするよう、聖書に描かれているのです。さて、改めてこのような視点、すなわち未来を預言し、しかもそれが実現する、という視点で考えるなら、日本に古くから伝わる仏教やら、また最近の新興宗教の教えの中には真の神など一つも存在していないことが分かります。未来を語り、しかもそれが実現する神も仏も、日本には一つも存在していません。私たちが受入れるかどうかは別として、それらの神、宗教は皆、聖書的視点に立つなら、偽物の教えであり、偽物の神なのです。

真理に関して

さて、このような視点、未来を預言し、しかもそれが皆実現するという視点から考えるなら、聖書の神の存在は、あらゆる神と呼ばれる者の中で比類のない、特別な存在であることが分かります。聖書の神は未来に関して預言し、しかもどのことばも実現される方だからです。このような神は世界においても、またあらゆる世界中の宗教やら、よろずの神さまの中でも比類のない、空前絶後の存在なのです。私たちが真理を求めようと宗教を考えるなら、それは良いことかも知れませんが、しかしその中でも、私たちがどのような道を選び、どのような神を選ぶか、ということは重要なのです。

下手なコーチに教えてもらってもテニスは上達しませんが、良いコーチに恵まれれば世界ランキングも望めるかもしれません。同じ意味合いで私たちが人生の正しい道筋、行くべきゴールを走ろうとする時、未来を知り得ない神の教えに耳を傾けるべきではありません。

聖書は未来を預言し、なおかつ実現し続けてきた世界で唯一の書であることは是非知っておいてください。聖書は神が未来を語り、それが成就したとの記述に満ちています。一例を挙げましょう。キリスト生誕の6世紀以前の時代の預言者イザヤは、来るべきキリストに関して、彼が悪人として葬られ、また、その墓は富む者の墓に入ることを預言しています。以下の通りです。

〔聖書箇所〕イザヤ書53:9

53:9 彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず、その口に欺きはなかったが。

果たしてこの預言はキリストの生涯において実現しました。キリストはその地上の生涯の最後、悪人と共に十字架に付けられ、そして彼の体は富む人であるアリマタヤのヨセフの墓に入りました。以下の福音書の記述の通りです。

〔聖書箇所〕ヨハネの福音書19:38

19:38 そのあとで、イエスの弟子ではあったがユダヤ人を恐れてそのことを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取りかたづけたいとピラトに願った。それで、ピラトは許可を与えた。そこで彼は

来て、イエスのからだを取り降ろした。

聖書の神はこのように前もって預言し、それを何百年の後で成就する神なのです。また、キリストとは、そのように前もって神の聖書によって預言された上で、誕生された方なのです。前もって預言されて誕生する、このことは比類のないことであり、他のいわゆる偉人や神とは異なります。他の宗教、たとえば仏教の仏などは、その死後何百年も後に書かれた法華経などで、大げさな表現で神格化されています。後から史実を脚色し、神格化する、それは、後出しジャンケンのようなもので、ある意味誰でもできることなのです。さて、私たちの人生において、歩むべき道、目指すべ方向、正しい真理とは何でしょう？このことに関して、冒頭のテキストのように、イエスは「**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。**」と語られました。そして分厚い聖書の全てのことばは、この方イエス・キリストに焦点を置いています。聖書はその全巻を挙げて、イエス・キリストにこそ我々が歩むべき正しい道があり、また目指すべき人生の真理、正解、正答がある、そう語っているのです。そして神ご自身も私たちがこのキリストに聞くことを語りました。以下の通りです。

〔聖書箇所〕マタイの福音書17:5

17:5 彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲がその人々を包み、そして、雲の中から、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい。」という声が出た。

私たちはこの一度しかない人生を間違えた歩み、誤ったゴールを目指して歩むべきではありません。しかしそうではあっても、私たちにはその歩むべき正しい道も、また入るべき正しいゴールもよく分からないのです。そのような私たちに向かって、聖書はキリストご自身の、「**私が道であり、真理であり、命である**」とのことばを語ります。この方の声に耳を傾けることをお勧めします。



キリストは預言どおり富む者と共に葬られた

高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(2)ネアンデルタール人に関する誤り

本日は「進化論の誤り(2)」として、このことをさらに見ていきたいと思えます。進化論を裏付ける猿人の発見であるとされるネアンデルタール人とは、現在の人間と全く変わらないヒトであることを今回は見ていきたいと思えます。

進化論の歴史とは、一言で言えば、捏造やら、誤解の歴史です。「生物は単純なものから、複雑なものへと徐々に進化した」という彼らの規定の結論や理論が先にあり、その理論に合わせて発掘の結果を無理矢理捻じ曲げていく、といった捏造の歴史なのです。

進化論の理論によれば、人間は人間より、下等な動物であり人間に似ている猿から、徐々に進化したことになっています。しかし、この理論には問題があります。その間の生物、サルと人との中間生物など、世界のどこにも存在していないからです。そのような中で発掘されたネアンデルタール人は、サルと人との中間生物、猿人であるとして有名になりました。

さて、このネアンデルタール人ですが、現在の研究では、猿とヒトの中間生物というより、普通の人間の骨に過ぎない、という考えが強いのです。ネアンデルタール人は、進化論では前かがみで歩いている猿人のように紹介されていますが、最近では、それは全くの誤りであることが分かっています。ネアンデルタール人の骨は複数見付かっていて、それらはどれも完全な直立歩行をしていたことを示していたのです。ブリタニカ大百科事典ではこのように述べています。「**一般に普及しているこの人類についての概念、つまり前かがみの姿勢、足をひきずりながらの歩行、そして曲がったひざ、これらは20世紀初頭に発見されたネアンデルタール人の1体の人骨の、肢骨のある特徴を誤って解釈したことの産物である**」と。

前かがみに解釈されたあるネアンデルタール人の肢骨は老齢で、くる病や関節炎を持っていたヒトのものであったことが分かっています。しかもネアンデルタール人は脳の容積が現代人より多少大きかったとさえ言われています。近年の相次ぐ発見でネアンデルタール人が衣服を持ち、死者の埋葬や献花の習慣まであったことが分かっています。死者を埋葬したり、献花ま

でする猿などいません。それは人間です。アメリカのアリゾナ州の考古学研究調査所ジェフリー・グッドマン博士はこう述べています。「**ネアンデルタール人が肩を曲げ、かがんだ形で、あまり賢くない動物だと考えるのは、主に初期研究者たちの先入観による間違った固定観念である。**」と。

ですので、ネアンデルタール人の特徴、すなわち猿人であることを示す特徴:前かがみに歩行する曲がった膝などは、たった一体の人間の老人の骨をもとに誤解され、誤って解釈され、思い込みで決め付けられた「証拠」なのです。現在の研究が示すことは、進化の証拠を示す猿人、ネアンデルタール人とは、進化論者の想像や思い込みのたまもの過ぎず、実際は人の骨が見付かったというだけなのです。すなわち、どんなに探しても進化論者の思い込みであるサルと人との中間生物などどこにも存在していない、これが今回の結論です。聖書には人間や動物の創造に関して以下のように、それは種類ごとに創造されたことが書かれています。

〔聖書箇所〕創世記1:25

1:25 神は、その種類にしたがって野の獣、その種類にしたがって家畜、その種類にしたがって地のすべてのほうものを造られた。神は見て、それをよとされた。

すなわち、神は動物も人間もその「種」、種類にしたがって創造されたのです。猿の種が徐々に進化して他の種に変わる、などという創造はしなかったのです。神が創造しなかった中間種など見付かるはずもないのです。進化論、それは愚かな人間の妄想や誤解の産物なのです。



ネアンデルタール人の骨格(写真左)は現在の人の骨格と全く変わりはない:猿人ではなく、人間の骨

箴言から学ぼう！：神さまは叱責されるお方

〔聖書箇所〕箴言6:23

6:23 命令はともしびであり、おしえは光であり、
訓戒(KJV訳:教育)のための叱責はいのちの
道であるからだ。

第5号では、神さまは私たちが教育されるお方だということを述べました。そのことに関連して、「教育」はやさしいことばかりではなく、時には叱責とか厳しいこともあるかもしれません、ということもチラッと語りましたが、たまたま今回選んだ冒頭の聖書のことばがまさしくそれと符号するかなあと思いましたので、少し話をさせていたいただきたいと思います。

ところで皆さまが描いている神さまの像(イメージ)とはどんなものでしょうか？ノンクリスチャンだった当時の私は、「少し怖い方なのでは？」とっていました。でも、それは私の話であって、一般的には愛のお方とか、寛容とか、そういう風に思う方が多いと思います。たしかにそれも当たっています。聖書には「神は愛」ということがハッキリ書かれているからです。でも、神さまは単に愛があるお方だけではなく、いえ、「愛」があるからこそ、必要に応じて私たちに「叱責」を与えられるお方でもあるのです。そう、「愛」のゆえに、私たちが「滅び」に行かせないために、「方向が間違えているぞ！」「今のまま行くと危ないぞ！」というときに、「叱責」や「むち」をお与えになるのです。私たちが死んだのちに、「永遠の命」を得て欲しいから、ゆえにそのようなことをなさるのです。

たとえばあなたが親御さんで、ある時子どもと一緒に釣りをしに川へ行きます。その時に、「川を見るだけならいいけど、川には入らないように。溺れるといけなから」と子どもに注意を与えます。でも、ふ

と気が付くと、子どもは岸から離れて川の中に足を入れていました。そんな時にどうしますか？そのまま深みに入って溺れて、最悪命を失うことがないように直ちに注意しますよね？そして「コラーッ、親の言うことをきちんと聞かないとダメだろう。もし、溺れて死んだらどうするんだ！」とお子さんを叱りますよね？

それと同じように、天の父なる神さまも、私たちが危ないゾーンに入っている、と判断した際に、注意を与えたり、叱責を与えたりするのです。それは人それぞれ異なりますが、しかしいずれも、このまま先に進んでしまうと、のちにとんでもないことになる！というときに、神さまの方法で叱責やむちが来るのです。その方法は事故とか怪我かもしれませんし、あるいは人を通して語りかけを与えるものかもしれません、もしくは誰かを通して理不尽なことや嫌な目に会わせるという方法なのかもしれません。そういったことを通して叱責をしたり、注意を与えたりして、私たちに気付きを与えてくださるのです。たしかに叱責や注意は人間的には喜ばしいものではありません。けれどももし、そのことに気付いてきちんと是正していくときに、神さまの恵みや祝福に入っていくのです。そして生涯において毎回そんな風に応じていくのなら、「いのちの道」を歩んでいると見なしていただき、「天国」に入れるのです。すばらしいですよ？？反対に、神さまから叱責や注意をいくら受けても、いつまでも心を頑なにして改めないというときに、「天国」は遠いものとなってしまい、最悪「永遠の忌み」(火の池とか地獄と呼ばれている場所)に入ってしまう可能性がありますので、神さまから何らか叱責や注意を受けた時には、素直に応じていきたいと思います。もし、そうかもしれないなあ、と思われましたら、ぜひ実践してみてください。

詩篇を読む:聖書で言う「悪者」とか「罪人」とは？

〔聖書箇所〕詩篇1:1

1:1 幸いなことよ。悪者のはかりごとによらず、
罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなか
った、その人。

世間ではあまり「罪人」ということばは耳に
しないかもしれません。どちらかと言えば
「犯罪人」ということばが使われていますよ
ね？要は刑法を犯した人のことを「罪人」と認
識していると思います。でも、聖書を読むと
分かるのですが、「罪人」とか「悪者」という
ことばがしょっちゅう出てきます。とは言っ
ても、「私は殺人や窃盗をしたことが無いから、
法に触れることは何もしていないから罪
とは無縁」とおっしゃるかもしれません。も
ちろんそれはすばらしいことではありますが、
しかし聖書において「義人はいない。ひとりも
いない」(新約聖書 ローマ人への手紙3章10
節)とあります。つまり私たちは皆、大なり
小なり、神さまの前に罪のある存在だ、とい
うことが分かりますよね？続いて次の節に、
「悟りのある人はいない。神を求める人はいな
い」と書かれています。これらの節を通して
言われているのは、神さまを求めないことが
「罪」だということなのです。「ええっ、何
それ？」と思われる方もおられるでしょう。
そのことばと関連するものが、詩篇10篇に
ありますので参考までに見てみましょう。

〔聖書箇所〕詩篇10:4

10:4 悪者は高慢を顔に表わして、神を尋ね求
めない。その思いは「神はいない。」の一言に尽
きる。

ここでも、「悪者」ということばが出てきま
す。そして「悪者」について「神を尋ね求めな
い」とあります。このことばは先ほどのロー
マ人への手紙「神を求める人はいない」のこ
とばと符号します。そう、聖書で言う「悪者」と
か「罪人」とは、単に法律を犯したり、人に意
地悪をしたり、人の悪口を言ったりする人た
ちだけではなく、神さまを尋ね求めない人の
ことをも言われているのです。少しびっくり

しますよね？そしてもし、神を尋ね求めずに
悪者の状態で生涯を終えてしまうときにどん
な運命が待っているのか？と言うと、同篇1
篇に「悪者は、それとは違い、まさしく、風が吹
き飛ばすもみがらのようだ」とか「悪者の道は滅
びうせる」とありますように、吹き飛ばされ
てしまったり、滅んでしまったりするのです。
はたまたこのことは、死後、成就する可能性
があるのです。しかし同篇2,3節に「まこと
に、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそ
のおしえを口ずさむ。その人は水路のそばに植
わった木のように。時が来ると実がなり、その葉
は枯れない。その人は、何をしても栄える」とあ
りますように、神さまのおしえを喜んで口ず
さむ人は、吹き飛ばされたり、枯れたりする
ことがなく、栄えていくのです。また、「神
さまの教えを喜び」とするためには、神さまを
尋ねていくことにポイントがあります。神さ
まを尋ねていくときに、神さまの教えを知る
ことができるからです。そしてそのことを生
涯にわたって全うしていくときに「永遠の
命」が約束されるのです。

繰り返して申し上げますが、たとえ法を犯
さなくても、あるいはエチケットやマナーを
守っていたとしても・・・もちろんそれらは
すばらしいことではありますが、しかし神さ
まを求めない、尋ね求めない、というときに、
神さまの前には「悪者」とか「罪人」という風
に見なされてしまうようですので、気を付け
ていきたいと思います。過去、あるクリスチ
ャンが、「一番の罪はイエス・キリストを拒
否すること、神さまを知らないこと」だと言
われていましたが、もしかすると今回の聖書
のことばも同じことを語っているのでは？と
思います。もし、そうかもしれない、あるい
は、死後の滅びから何とか逃れていかなけれ
ば、なんて思われましたら、ぜひイエスさま
を心に受け入れていきたいと思います。そし
て少しずつでも神さまを尋ね求めていきたい
と思います。イエス・キリストは今日もお一
人一人に手を差し伸べておられます。

キリストを信じた体験談:神さま(イエスさま)に変えていただいたこと

クリスチャンになってから大分年数が経っている者ですが、その間種々のことをお祈りによって神さまに変えていただいたことがあるのですが、そのひとつを証したいと思います。

聞いて呆れてしまうかもしれませんが、私は小学生の時に夏休み恒例の読書感想文の宿題を提出しないことがありました。当然のことながら担任の教師からは、「なんで出さないの?」と尋問され、その時には返す言葉もありませんでした。でも、翌年も、また、そのまた翌年も、そして中学生以降も、要は学生生活の間において、読書感想文はずっとつきまわってききました。そもそも子どもの頃から本を読む習慣もほとんど無かったので、本を読むこと自体、私にとってはハードルが高いことでした。そしてやっとの思いで読み終えて、さあ、いざ文章を書く、という段階になって何を書いていいのかさっぱり・・・という感じでした。そんなこんなで感想文だけではなく、作文や論文も同じでした。課題だから何とかやらなければ!とは思いますが、なかなかペンが思うように進まずに、「うーん、困ったなあ」ということが毎回続いていました。

それから大分時を経て、社会人になって、「もう、作文や感想文とはお別れだ。良かった〜」とホッと一息ついていたのですが、今の教会に通うようになってから、こんな風に文章を書く機会が与えられるようになりました。イエスさまに関することなので、非常に光栄なことではありますが、しかし過去のことを思い出しては「できるかなあ、大丈夫か

なあ?」と心配もありました。その時でした。牧師が、「神さまの働きをするために大事なことは、とにかくお祈りすることですよ」とお話されていました。はじめは半信半疑だったのですが、深く考えても仕方が無い、それこそ案ずるより生むが易い、と思って少しずつ実践してみました。お祈りを開始したばかりの頃は特に大きな変化は無かったのですが、ある時を境に徐々に変えられていきました。あれほど文章を書くことに抵抗を感じていたのに、いざ書こうとすると、あれよあれよという間に書き上げてしまうのでした。たしかに実際に書いているのは自分なのですが、しかし、じつはそうではなく、私を通して明らかに神さま(イエスさま)が、なしてくださっているなあということを実感しました。祈ったことによって、神さま(イエスさま)の力が働いているのだなあと思いました。

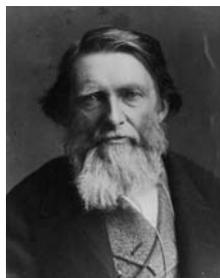
今でも基本的に文章を書くことは得意ではありませんが、しかしお祈りによって神さまが助けてくださるのなら、できる!ということが分かりました。あれだけ苦手だったことではあるのですが、神さまの力(聖霊の力)が働くときに、そういう部分も変えてくださることにびっくりでした。もし、これが不得手で困っている〜、なんてことがありましたら、ぜひお祈りしてみてくださいね。もしかすると神さまが助けてくださるかもしれませんので、よろしければ実践してみてください。

“しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。(第2コリント人への手紙12章9節〔新改訳聖書〕)”

聖書に関する偉人のことば:ラスキンのことば／お知らせコーナー

<聖書と偉人>

ジョン・ラスキン(評論家)



私が著作したことに何か功績があるとすれば、それは私がまだ幼かったとき、私の母が日ごとに聖書の箇所を読み聞かせ、それを私に暗唱させたという事実を負うに過ぎない

<お知らせコーナー>

●月刊バイブル無料プレゼント！(限定5名様)

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？もし興味があり、購読をご希望の方はお申し込みください。尚、期間限定サービスとして、申し込み順で5名様までに、本紙、送料共に「1年間無料！」で送付することにします。ご希望の方は以下を記載の上、[mail:truth216@nifty.com](mailto:truth216@nifty.com) もしくは [fax:020-4623-5255](tel:020-4623-5255) もしくは <tel:042-364-2327> へご連絡ください。先着5名様に郵送でお送りします。

「月刊バイブル無料サービスに申し込みます。」

住所:

名前:

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス <http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋 <http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>